

報道関係各位

2021年6月10日
学校法人多摩美術大学

日本初、美大によるSDGs時代の廃棄物循環型経済モデル 多摩美術大学、中小・大手企業5社との共創プロジェクト始動

～廃棄物の発生抑制や、資源や付加価値製品への転換で捨て方を根本から変える「すてるデザイン」を推進。
六本木の新拠点 Tama Art University Bureau にて、オープンイノベーション本格始動～

学校法人多摩美術大学（所在地：東京都世田谷区、理事長：青柳正規、多摩美術大学、学長：建畠 哲）は、2021年5月、株式会社モノファクトリーと企業5社と連携し、循環型社会に向けた共創プロジェクト「すてるデザイン」を立ち上げます。共創プロジェクト「すてるデザイン」は、企業の産業廃棄物に新しい価値や意味を与える美術大学によるサーキュラーエコノミーに向けた新しい取り組みです。2021年4月に東京ミッドタウン内に開所したTama Art University Bureau(所在地：東京都港区、以下TUB)を拠点にした活動です。

TUBは、“まじわる・うみだす・ひらく” をコンセプトに、様々なステークホルダーや企業、社会人を行うオープンイノベーションによる新しい価値創出、デザインやアートの力を社会に対して開いていくことを目的としています。この度、オープンイノベーションの第一弾のテーマとして、株式会社モノファクトリーをハブにしなが、伊藤忠リーテイルリンク株式会社、株式会社ナカダイ、ブックオフコーポレーション株式会社、プラス株式会社、他1社と一緒に、本学初の複数社と連携した社会課題解決型のプロジェクトに臨みます。

大量生産・大量消費・大量廃棄のリニアな経済から循環型経済（サーキュラーエコノミー）へという掛け声や脱炭素社会の重要性が声高に叫ばれているにも関わらず、解決できている事例は世界的にもほとんどありません。無限に捨てるのが可能という前提で、社会の仕組みが成り立ってきたからです。産業廃棄物の年間総排出量約3億7,883万トン（平成30年度 実績環境省調べ）、アジア諸国の廃棄物輸入規制の影響や土地面積の狭いため廃棄する場所が限界にきているなど、日本が抱えている課題もあります。そこで本学は、デザインの力を通じて廃棄物の発生抑制や捨て方自体を根本から変える「すてるデザイン」を始動。産業廃棄物の処理に長く関わり、リサイクル率99%を実現している株式会社ナカダイのコンサルティング部門として独立した株式会社モノファクトリーをハブにしなが、廃棄物の課題と真摯に向き合っている企業と協働しながら前例にとらわれないデザインの持つ創造的な力を活かして新しい価値を創出や課題解決をしていきます。

共創プロジェクト「すてるデザイン」は、プロダクトデザインを専攻の学生の授業のプログラムを中心にしながら、プロダクト、情報デザイン、統合デザインなどの学科横断の有志による取り組み、有識者のレクチャーによる学びの機会の提供、またこの活動や成果を社会に広げ、さらに多くの参加者を募っていくためのイベントの開催などを予定しています。デザインする機会として以下の3フェーズで活動していきます。

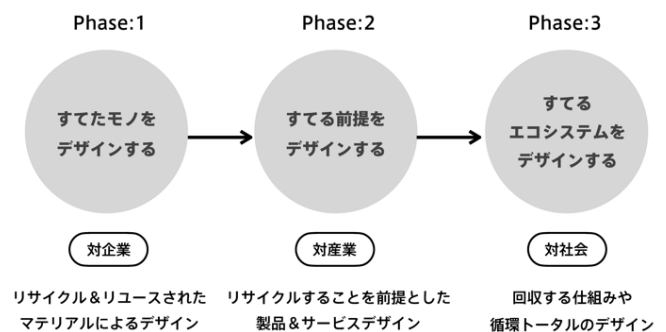


図 1:「すてるデザイン」プロジェクト 活動のフェーズ

<Phase1> すてたモノをデザインする：リサイクル&リユースされたマテリアルによるデザイン
<Phase2> すてる前提をデザインする：リサイクルすることを前提とした製品&サービスのデザイン
<Phase3> すてるエコシステムをデザインする：回収する仕組みや循環トータルのデザイン
学生参加のプログラムとして、今年度合計8つの課題プログラムがカリキュラムに組み込まれており、既に着手しています。

■本プロジェクト参加企業5社（五十音順）

伊藤忠リーテイルリンク株式会社
株式会社ナカダイ
ブックオフコーポレーション株式会社
プラス株式会社
他1社



伊藤忠リーテイルリンク株式会社



PLUS

■本プロジェクトのスキーム

以下のような体系でプロジェクトに臨みます。

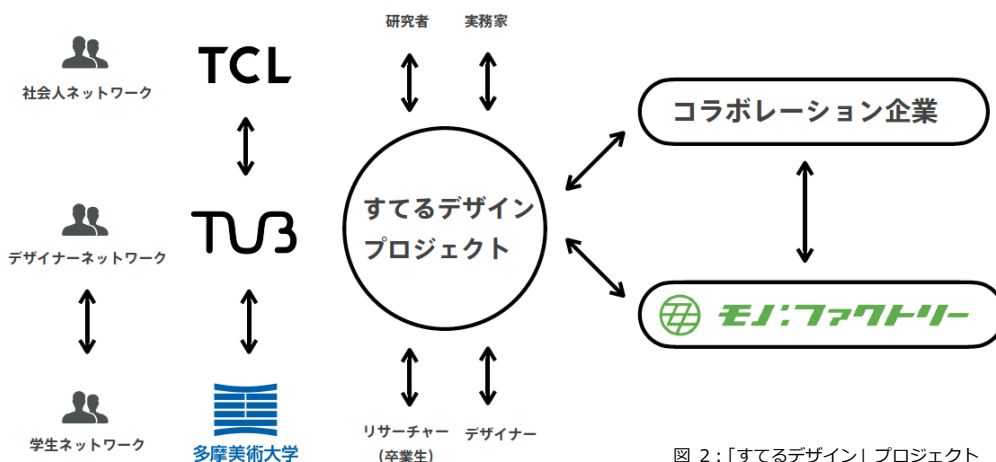


図 2:「すてるデザイン」プロジェクト スキーム

■本プロジェクト コアメンバーよりコメント

TUBディレクター 多摩美術大学 統合デザイン学科 永井一史教授 コメント

「すてるデザインの注目し生産と消費のあり方を変革することによって、大きな機会をもたらす可能性を感じています。今年の4月に立ち上げたTUBのオープンイノベーションの第一弾として取り組むべき大きなチャレンジとして、学生はもとより、関心ある社会人も巻き込んでいける大きな枠組みにしていきたいと考えています。」



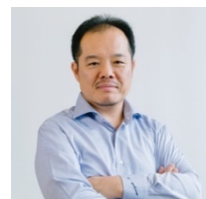
プロジェクトリーダー 多摩美術大学 生産デザイン学科 濱田芳治教授 コメント

「循環型社会に向けた対策は、社会の抱える喫緊の課題であり、学生たちの関心もとても高いです。次の世代を担う人材を育てながら、こうした課題に取り組む意味は高いと考え、協働する企業の協力を得ながら、廃棄資材利用の解決策の提示と、プロセスから得られる学びや気づきを知見としてまとめながら進めるプロジェクトとしていきたいと考えています。」



株式会社モノファクトリー社長 中台澄之氏 コメント

「私の会社は、多くの企業の廃棄物の削減、自社商品の回収、再商品化やリサイクル化をしています。循環ビジネスを展開する中で、商品を生み出すときは企業の独自性を発揮しても、それらの商品の循環、リサイクルの仕組みは、全産業共通の知見にすることが循環社会の実現には必要だと考えています。このプロジェクトは、産業界、デザイン業界、廃棄物業界が連携するこれまでにないスキームなので、ジャンルを問わず、多くの方に関わっていただきたいと思っています。」



■本プロジェクト参加企業よりコメント

伊藤忠リーテイルリンク株式会社

「日常の道具として使える新しいエコのカタチをTUB・モノファクトリーの皆様といっしょに具現化していく、この取組自体に大きな期待を持っております。これまでにない素敵なプロダクトやスキームを産みだしていきましょう。どうぞ宜しくお願いいたします。」

ブックオフコーポレーション株式会社

「当社では全国800店舗を展開するリユース店舗チェーン『BOOKOFF』を通じて、お客様から年間4億点の商品を買取しておりますが、そのうち一定期間で販売しきれなかった分は、海外での再販売や、資源としてリサイクルにつなげております。その中で『CD・DVD等』は、プラスチックとしての資源価値は高いにも関わらず、様々な事情からリサイクルとしての経済合理性が難しくなっているのが現状です。当社は、本プロジェクトを通じて、売れ残った『CD・DVD等』を全く異なる価値に創り変えることで『モノの寿命を、形を変えて延ばす』ことにチャレンジしたいと考えております。」

プラス株式会社

「プラスはメーカーとして価値あるモノを生み出すことだけでなく、『どのように廃棄して、いかに循環させるのか』を同時に提案することが企業の社会的責任だと考えます。今回『すてるデザイン』プロジェクトに参加することで、循環型社会に向けた当社の活動に『新しい価値』を付加できると期待を膨らませています。」

■プロジェクト関連企画 多摩美術大学 TUB

多摩美術大学 TUB 第2回企画展「すてるデザインの生まれる場所」開催について

多摩美術大学 TUBにて、6月4日（金）より、第2回企画展「すてるデザインの生まれる場所」展を開催します。デザインとアートの様々な背景を持つ多摩美術大学の学生が、廃棄資材を用いて作品制作に取り組む「生のプロセス」をお見せする展示企画です。美術大学では当たり前風景である、手を動かし続けることで創造性がはたらく瞬間を展示することで、ブラックボックスな印象がある創造行為に対して、新しいイメージをもたらす機会とします。



<企画展概要>

名 称：多摩美術大学 TUB 第2回企画展「すてるデザインの生まれる場所」

会 期：2021年6月4日（金）～6月24日（木） ※日曜日定休

会 場：多摩美術大学 TUB 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F(デザインハブ内)

時 間：11:00-18:00 入場無料

主 催：多摩美術大学 TUB

協 力：株式会社モノファクトリー

■多摩美術大学 TUB 基本情報

英語名称：Tama Art University Bureau

名称：多摩美術大学 TUB

所在地：東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー5F（デザインハブ内）

面積：151.54 m²

ディレクター：和田達也教授、永井一史教授

多摩美術大学 TUB WEB サイト <https://tub.tamabi.ac.jp/>



図 3：デザインハブ地図

<東京ミッドタウン・デザインハブについて>

2007年4月に開設されたデザインネットワークの拠点です。デザインのプロモーション・職能・研究教育という異なる役割を担う機関が連携し、デザインによって「人」「ビジネス」「知識」を結びつけ、展覧会やセミナーの開催、出版などで情報を発信しています。（構成機関：公益財団法人 日本デザイン振興会、公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会、多摩美術大学 TUB）

東京ミッドタウン・デザインハブ WEB サイト <https://designhub.jp/>

■多摩美術大学 基本情報

1935年多摩帝国美術学校として創立（初代校長・杉浦 非水）／キャンパス：八王子キャンパス、上野毛キャンパス／学生数：美術学部 4,451 人、大学院美術研究科 294 人（2020年5月1日現在）／美術学部：絵画学科（日本画専攻、油画専攻、版画専攻）、彫刻学科、工芸学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科（プロダクトデザイン専攻、テキスタイルデザイン専攻）、環境デザイン学科、情報デザイン学科（メディア芸術コース、情報デザインコース）、芸術学科、統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科（演劇舞踊コース、劇場美術デザインコース）／大学院美術研究科：博士前期課程、博士後期課程

多摩美術大学 WEB サイト <https://www.tamabi.ac.jp>

■株式会社モノファクトリー 基本情報

2010年、リサイクル率99%超の廃棄物処理業者である株式会社ナカダイが、廃棄物の魅力、特徴を活かした新しいモノの使い方を提案する部門として、“モノ：ファクトリー”を創設。“発想はモノから生まれる”をコンセプトに、廃棄物の新たな価値の再発見と、素材として再流通を行う“リマーケティングビジネス”として事業を拡大。2013年、そのビジネスモデルが、Good Design 未来づくりデザイン特別賞を受賞し、同年に法人化。“使い方”を創造し、“捨て方”をデザインする企業として、廃棄物の削減とリサイクル化、製品回収スキーム構築やその再商品化、SDGsをはじめとする多くの環境教育やイベントの企画、運営など、循環ビジネスに関する幅広い事業を展開する。

株式会社モノファクトリー WEB サイト <https://www.monofactory.com/>

■伊藤忠リーテイルリンク株式会社 基本情報

私たち伊藤忠リーテイルリンク株式会社は、伊藤忠グループの中でも存在感のあるユニークな会社として、グループにおけるリーテイル事業を担っています。店舗資材や日用品など、生活に密着したさまざまな商品を、競争力のある商品開発と合理的な物流システムを通じてお客様に安定供給することを、事業展開の基本としています。明るく・楽しく・元気よく！をモットーに、私たちの企業活動を通じて社会のサステナビリティ向上に貢献してまいります。

伊藤忠リーテイルリンク株式会社 WEB サイト <https://www.itc-rl.co.jp/>

■株式会社ナカダイ 基本情報

1937年創業、本社は東京都品川区、工場を群馬県前橋市に置く廃棄物中間処理会社。取扱品目は、金属、プラスチック、木、ガラスなど非常に多岐にわたり、取扱量は60t/日、リサイクル率は99%超の総合リサイクル業として多くの上場企業と契約をしている。廃棄物の新たな価値の再発見と、素材として再流通を行う“リマーケティングビジネス”を確立し、2013年、Good Design 未来づくりデザイン特別賞を受賞。2018年にホールディングス化し、関連会社である(株)モノファクトリーに循環ビジネスに関するコンサルティング業務を移管したことから、“捨てる”と“使う”をつなぎ廃棄物から素材を生産する工場、取引先企業の資源循環のR&D拠点として事業を拡大している。中古オフィス家具の北関東最大のオークション市場の運営も行う。

株式会社ナカダイ WEB サイト <http://www.nakadai.co.jp>

■ブックオフコーポレーション株式会社 基本情報

所在地:神奈川県相模原市南区古淵2-14-20

代表者:代表取締役社長 堀内 康隆 (ほりうち やすたか)

事業内容:書籍・パッケージメディア、アパレル等の総合リユース事業の運営

ブックオフコーポレーション株式会社 WEBサイト <https://www.bookoff.co.jp/>

■プラス株式会社 基本情報

主な事業内容：オフィス家具、オフィスインテリア用品の製造・販売／文具、事務用品、OA・PC関連商品、事務機器の製造・販売／オフィス環境のデザイン・施工・内装工事・電気工事・管工事／電子光学機器、教育機器の製造・販売／日用雑貨品、食料品、ソフトウェア、書籍の販売／インターネットを利用した上記商品の販売／上記商品を対象とした海外事業

プラスグループでは、社会課題の解決や、循環型社会の持続的発展に向け、原材料の調達からリサイクルまでのすべての事業領域において重複行為をなくし、ビジネスを合理的かつシンプルに再構築する「社会最適システム」の発見・創造に取り組んでいます。

プラス株式会社 WEB サイト <https://www.plus.co.jp/>